

2021年度事業完了報告

2021年ユニタール広島青少年大使育成事業

ユニタール持続可能な繁栄局
2022年3月

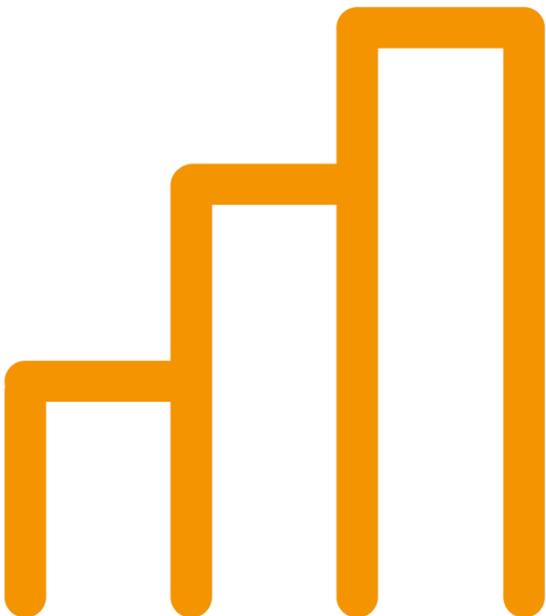


2021年度事業完了報告

2021年ユニタール広島青少年大使育成事業

ユニタール持続可能な繁栄局

2022年3月



謝辞

国連訓練調査研究所（ユニタール）は、本事業をご支援くださった次の団体に厚く御礼申し上げます。

- 広島県
- 国際ソロプチミスト広島一中央
- 一般社団法人国連ユニタール協会

加えて、事業を支援して下さった以下の団体に御礼申し上げます(順不同)。

- エイチ・アンド・エム ヘネス・アンド・マウリッツ・ジャパン株式会社
- 株式会社テレビ新広島
- グローバル教育推進プロジェクト (GiFT)
- 慶応義塾大学特任助教高木超氏 (Cosmo Lab)
- 日本電気株式会社



第1日目の様子

ユニタール持続可能な繁栄局

ユニタールは8つの局があり、その一つである持続可能な繁栄局は貿易・金融プログラムチームと広島事務所で構成されています。私たちは最先端のトレーニングと、インクルーシブで持続可能な経済成長を促進する学びの機会を提供しています。

持続可能な繁栄局は持続可能な開発目標（SDGs）を支援する6つのテーマを柱としています。：

- 汚職防止・犯罪対応
- 起業及びプライベートセクター開発
- 貿易と金融
- 最先端テクノロジー
- 広島と平和
- リーダーシップとエンパワーメント

私たちは、適切で的を得た研修を設計してきた幅広い経験を活かし、私たちが研修を提供する地域や個人のニーズにあった手法やテクノロジーを組み合わせます。私たちは女性、若者、紛争状態にいる人々など、最も弱い立場にある人々に特別な注意を払いながら、後発開発国、小島嶼開発途上国、脆弱な国家からの研修生とともに、活動しています。



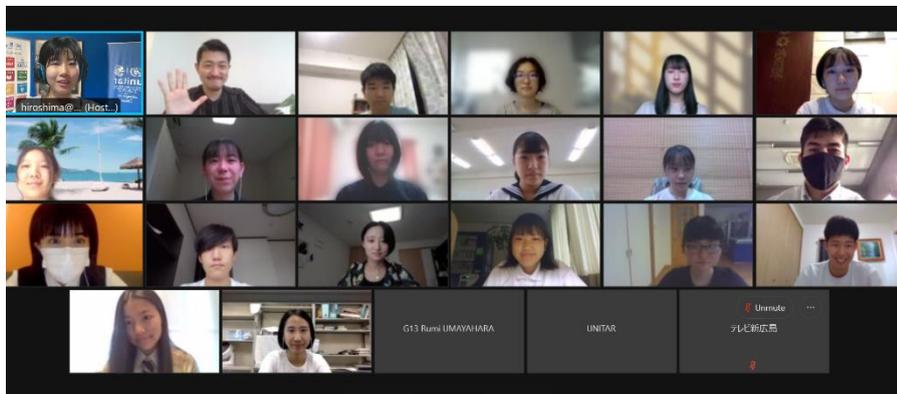
国連訓練調査研究所
持続可能な繁栄局・広島事務所
局長兼所長

隈元美穂子



目次

2021年度事業完了報告..... 1
団体概要..... 4
 要旨..... 7
 研修の要旨..... 8
 青少年大使の対象者..... 9
 ジェンダー・バランス..... 9
 学校分布..... 10
結果..... 13
考察..... 17



要旨

はじめに

国連ユニタール広島青少年大使プログラムは2010年に開始され、現在の国際社会における課題や課題に対する国連の取り組みなどに対する高校生たちの理解を深めるだけでなく、彼らが将来国際舞台において活躍するために必要とされるスキルを身に付けることを目的としています。ユニタールではこの青少年大使プログラムを地域密着型の取り組みの中でも中心的な事業の一つとして位置付けています。2010年から2020年の間、96人の広島県内の高校生が参加しています。

2021年には県内13校から22名の高校生が参加しました。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、研修はすべてオンラインで実施されました。

プログラムの目的

ユニタール広島青少年大使事業は、生徒が国際的な問題や持続可能な開発目標(SDGs)に対する理解を深め、自分たち自身でそういった問題に対応するプロジェクトを創り、運用していくスキルを身に着けるとともに、国際的な専門家やほかの若くして活動を実施している人と国際的につながっていくことを目的としています。

青少年大使たちが、将来への機会を広げ、国際的な場でより良い世界を作る担い手となれるようにすることが、この事業のゴールになります。

2021年は、「若者のアイデアを社会に注入する」をコンセプトに、実際に社会を変える活動をしていくために必要な能力の開発に重点を置きました。

統計

2021年、プログラムは2020年と同様すべてオンラインで提供されました。広島県内13校から22名が参加し、23%が男性、77%が女性でした。

プログラムの構成と手法

3か月間のプログラムの中で、青少年大使たちはオンデマンドのEラーニングコースと、SDGsに関する活動を実施している企業や団体、専門家の講義や中間発表、グループワーク、国際交流、公開最終プレゼンテーションで構成された6回のライブウェビナーを組み合わせた研修を受けました。研修生たちは、SDGsの4つのゴールでそれぞれグループ分けされて、SDGsを実現するためのプロジェクトをグループで作成し、公開の最終プレゼンテーションで発表しました。

研修生からの評価

100%の青少年大使が研修終了後、SDGsに取り組む意欲を持つようになったとアンケートで回答しました。94%の青少年大使がSDGsに取り組む能力が向上したと回答し、94%の研修生がチームでソリューションを見つける力が高くなったと回答しました。

考察

包括的な学びの機会はSDGsに対する学びを促進させることができました。生徒たちからは、他校の同じ志を持つ生徒とのディスカッションやグループワークについて、有意義だったとの意見がありました。

研修では、基礎的なSDGsの知識の習得はEdAppで行い、SDGsの実践者にライブの授業で話を聞く、という形をとりました。生徒からも知っているブランド等が取り組んでいるSDGsについて知れること、講義中・後に意見交換できたことが有意義だったとの声もありました。

オンラインでの研修について72%の青少年大使が良かったと回答しました。初期のグループディスカッションではなかなかチームでの会話がままならない等の課題はあったものの、学校ある日でも研修を受けられやすかった等、利便性に魅力を感じる青少年大使が多くありました。

研修の要旨

プログラムの概要

かつてない、グローバル化の流れに伴い、世界は日に日に複雑となっています。気候変動、金融危機、そしてパンデミックなどの様々な課題に、今まで人類が経験してこなかったスケールで直面しています。

2018年の国際青少年デーで国連事務総長は、若者が持つ力がいかに重要であるかを強調しており、若者が持つ可能性をまさに今取り入れていくことを重視すると述べました。若者は、SDGsを、地域社会や自分の国の目標へと落とし込んでいく重要な存在です。国連ユース・ストラテジーでは、国連の役割として、若者の社会へのエンゲージメント、参加、若者としての主張の場を増やし、平和で持続可能な世界を推進するために彼らの意見を広めていくことを挙げています。

新型コロナウイルス感染症の蔓延という、新しい世界課題のなか、社会は生活やビジネスモデル、コミュニケーション手法等を変革することが求められています。このような新しい課題に対応するために、社会活動をしていく若者たちは、自分たちの能力を強化し、より自分たちの意見を発信し、世界的な若者の動きを増やしていく必要があります。

青少年大使プログラムは2010年にユニタール広島事務所が開始しました。プログラムは、広島の若者たちが、国際的な問題に対する洞察力を培い、国際的なコミュニティに対して積極的に関与していく機会を提供しています。過去10年の中で、プログラムの内容は社会の背景や各年におけるニーズに対応し、変化していきました。

2021年の研修についても、新型コロナウイルス感染症の蔓延という、世界中に影響を与えている課題に直面しているなか開催されました。

今年度は特に「若者のアイデアを社会に注入する」をコンセプトに、自分の興味があるSDGsのゴールの一つに対し、グループでプロジェクト案を作ることを研修の最終目標に設定しました。

講師も民間企業を中心に集めたほか、グループワークでも目標設定・課題分析・プランニングと順序だてて、ワークを実施していきました。また、国連ユニタール青少年大使アジア・太平洋（香港）の生徒たちとのオンライン交流会も実施しました。

青少年大使の対象者

本研修では、2010年に開始して以降広島県の高校生を対象に実施してきました。

2010年～2016年においては、広島県の高校生が平和に向けた発信をすることに重点を置いており、毎年2名の高校生を選出し、大使館や外務省への表敬訪問等を実施していました。

2017年以降は、より地球市民としての能力を多くの広島県の高校生が培っていくことに重点を置き、毎年20名程度の高校生に対して、ユニタールの知見やネットワークを生かした研修を提供するようになりました。

2021年の研修生の数・ジェンダーバランス・住まい

2021年の研修では、13校22名の広島県の高校生が参加しました。22名の中で5名（23%）が男性、17名（77%）が女性でした。すべての生徒が研修を修了しました。

ジェンダー・バランス



学校分布

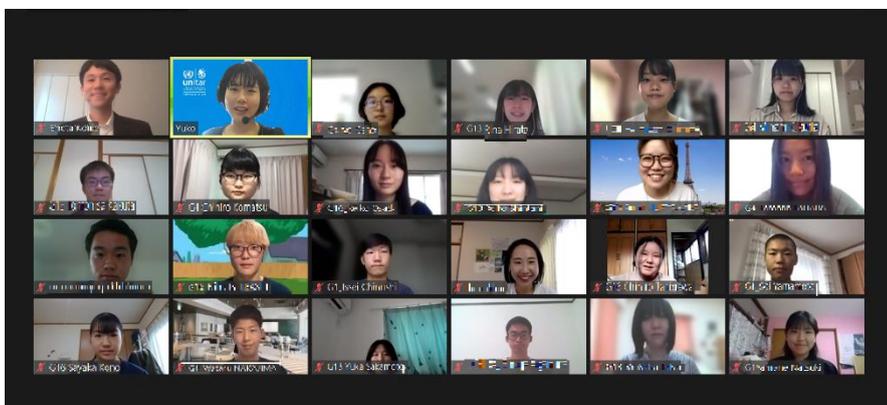
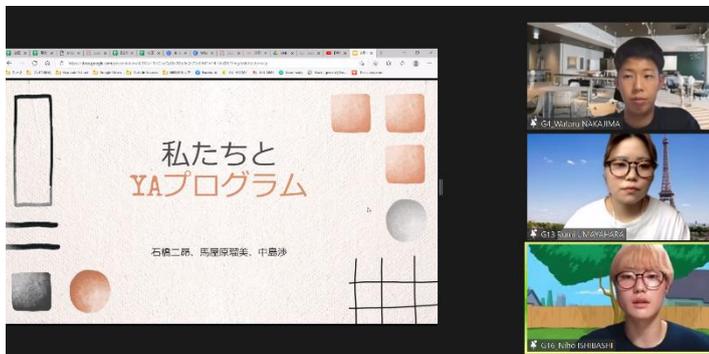
- ✓ AICJ高等学校
- ✓ ノートルダム清心中高等学校
- ✓ 屋久島おおぞら高等学校 (KTCおおぞら高等学院広島キャンパス)
- ✓ 広島県瀬戸内高等学校
- ✓ 広島県立安芸府中高等学校
- ✓ 広島県立加計高等学校
- ✓ 広島県立海田高等学校
- ✓ 広島県立広島高等学校
- ✓ 広島県立広高等学校
- ✓ 広島県立呉三津田高等学校
- ✓ 広島県立広島国泰寺高校
- ✓ 広島女学院高等学校
- ✓ 武田高等学校

計13校



学習成果指標

1. SDGsの基本的な知識・実践方法を習得すること
2. 英語力や多様な文化・考えへの理解など国際社会で求められるスキルの習得すること
3. ユニタールのスタッフとのコミュニケーションや香港の青少年大使との交流会を通して世界的な視野を習得すること
4. SDGsの達成を促進している日本の、もしくは世界的な専門家とのネットワークを形成すること
5. 広島県のような市や地域から参加しているほかの青少年大使とのネットワークを形成すること



第4日目の様子

プログラムの構成や手法

3か月間のプログラムの中で、青少年大使たちはオンデマンドのEラーニングコースと、S6回のライブウェビナーを組み合わせた研修を受けました。青少年大使たちは、SDGsの4つのゴールでそれぞれグループ分けされて、SDGsを実現するためのアクションプランをグループで作成し、公開の最終プレゼンテーションで発表しました。

1. オンデマンドのEラーニングコース

マイクロラーニングプラットフォームであるEdAppを用い、青少年大使たちは、SDGsの概要や、各SDGに対する基本知識を身に付けていきました。

それぞれのコースはクイズや正誤問題、といったエクササイズを含んだ、1レッスン15分程度の簡易なものとなっていました。

それぞれのコースは以下の通りです。：

- SDGsの概要
- ゴール1：貧困をなくそう
- ゴール4：質の高い教育をみんなに
- ゴール13：気候変動に具体的な対策を
- ゴール16：平和と公正をすべての人に

2. ライブウェビナー（全6回）

全6回のウェビナーでは、以下のようなコースが実施されました。

- SDGsの概要
慶応義塾大学特任助教高木超氏（Cosmo Lab）
- 英語レッスン（日本の文化を紹介する）
ユニタートレーニー アレクサンダー・ヘイ
- ゴール1、4、13、16における取組の講義・ワークショップ
 - 貧困をなくそう（ゴール1）
日本電気株式会社 池田 俊一氏
 - 質の高い教育をみんなに（ゴール4）
グローバル教育推進プロジェクト（GiFT） 辰野 まどか氏
 - 気候変動に具体的な対策を（ゴール13）
エイチ・アンド・エム ヘネス・アンド・マウリッツ・ジャパン株式会社
山浦 氏
 - 平和と公正をすべての人を（ゴール16）
株式会社テレビ新広島 横川 氏
- 青少年大使の卒業生たちによる取り組み紹介（2018・2019年青少年大使【UNITAE】、2020年青少年大使【UCHIRA】）
- 香港の青少年大使との交流会
- 中間発表2回
- グループワーク5回
- 最終プレゼンテーション（公開ウェビナー）

3. グループワーク

- 青少年大使たちは、SDGsの4つのゴールでそれぞれグループ分けされて、SDGsを実現するためのアクションプランをグループで作成し、公開の最終プレゼンテーションで発表しました。
- それぞれのウェビナーで、青少年大使たちは1時間程度のグループワークを実施しました。
- グループワークの中では、自分たちのプロジェクトが担当のゴールの中のどの面を達成

することができるかや、課題設定をし、その上でアクションプランの策定をしていきました。

- 10月24日の最終プレゼンテーションでそれぞれが策定したアクションプランを一般視聴者に対し、プレゼンテーションしました。

研修に携わった専門家・SDGsの実践者

本研修では青少年大使たちが、SDGsへの取り組みをより身近に感じ、自らが実践者となるため、ロールモデルとなる取り組みを実施している企業や個人を招聘しました。

- エイチ・アンド・エム ヘネス・アンド・マウリッツ・ジャパン株式会社 山浦 氏
- 株式会社テレビ新広島 横川 氏
- グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) 辰野 まどか氏
- 慶応義塾大学特任助教高木超氏 (Cosmo Lab)
- 日本電気株式会社 池田 俊一氏

持続可能な開発目標との関連性

ゴール4：質の高い教育をみんなに



ターゲット4.7: 2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする。

ゴール17：パートナーシップで目標を達成しよう



ターゲット17.16: 持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップのマルチステークホルダー・パートナーシップによる補完を促進し、それによるナレッジ、専門知識、技術、および資金源の動員・共有を通じて、すべての国々、特に開発途上国の持続可能な開発目標の達成を支援する。

ターゲット17.17: さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

結果

プログラムの結果は、プログラムの最終日に研修生によって提出された研修後調査によって測定されました。100パーセントの返答があった。調査ではEdAppやワークショップ、グループワーク、ユニタールやメンターのサポート等について、確認しました。

事前学習の参考度

事前学習 (EdApp) について、19人~20人が回答し、80パーセント以上が「大変勉強になった」「まあまあ勉強になった」と回答しました。生徒が出してきたコメントとして、「1回 (のコースが) そんなに時間がかからないので取り組みやすかった。」「インタラクティブな学び方が楽しかった。」などありました。

	大変勉強になった	まあまあ勉強になった	可もなく不可もなく	あまり勉強にならなかった	全く勉強にならなかった
▼ ゴール1：貧困をなくそう	63.16% 12	26.32% 5	10.53% 2	0.00% 0	0.00% 0
▼ ゴール4：質の高い教育をみんなに	57.89% 11	26.32% 5	10.53% 2	0.00% 0	5.26% 1
▼ ゴール13：気候変動に具体的な対策を	70.00% 14	20.00% 4	10.00% 2	0.00% 0	0.00% 0
▼ ゴール16：平和と公正をすべての人に	63.16% 12	26.32% 5	10.53% 2	0.00% 0	0.00% 0

研修中の講義の参考度

19人～20人が回答し、すべてのコースについて、75パーセント以上が、「大変参考になった」「まあまあ参考になった」と回答しました。生徒からは、「みんなが知っているブランドの方の話を聞けるのがいい経験になった。」「色々なジャンルの講師の方に話をいただけて、たくさんのことを学べてうれしかった。」「現実的な行動や考えを知ることができてよかった」などのコメントが寄せられました。

	大変参考になった	まあまあ参考になった	可もなく不可もなく	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	不参加	TOTAL
▼ SDGsの全体像に関する講義（高木超先生、7月25日実施）	55.00% 11	35.00% 7	10.00% 2	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	20
▼ ゴール4：質の高い教育をみんなに（GiFT 辰野まどか先生、8月10日実施）	78.95% 15	15.79% 3	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	5.26% 1	19
▼ ゴール1：貧困をなくそう（NEC 池田先生、8月10日実施）	63.16% 12	15.79% 3	15.79% 3	0.00% 0	0.00% 0	5.26% 1	19
▼ ゴール13：気候変動に具体的な対策を（H&M 山浦先生、8月27日実施）	55.00% 11	20.00% 4	10.00% 2	0.00% 0	0.00% 0	15.00% 3	20
▼ ゴール16：平和と公正をすべての人に（テレビ新広島 横川先生、8月27日実施）	57.89% 11	15.79% 3	10.53% 2	0.00% 0	0.00% 0	15.79% 3	19

国連ユニタール青少年大使アジア太平洋の生徒たちとの交流について

20人が回答し、80パーセントがとてもいい交流ができたと回答しました。お互いの文化や趣味について、話すことができたという回答する生徒も多い一方、うまく英語でコミュニケーションができなかったというコメントも多く寄せられました。自分が英語でうまくコミュニケーションができなかった悔しさをばねに勉強を頑張る、という声も寄せられました。

ANSWER CHOICES	RESPONSES	
▼ とてもいい交流になった。	80.00%	16
▼ 臆せず話すことができた。	15.00%	3
▼ 言いたいことを伝えられなかった。	30.00%	6
▼ お互いの文化や趣味について楽しく話せた。	60.00%	12
▼ お互いの文化や趣味について思うように話せなかった。	25.00%	5
▼ SDGsについて活発に意見交換できた。	35.00%	7
▼ SDGsについて思うように話せなかった。	35.00%	7
▼ 将来的な交流がもできそうだと思う。	50.00%	10
▼ 参加できなかった。	5.00%	1
Total Respondents: 20		^

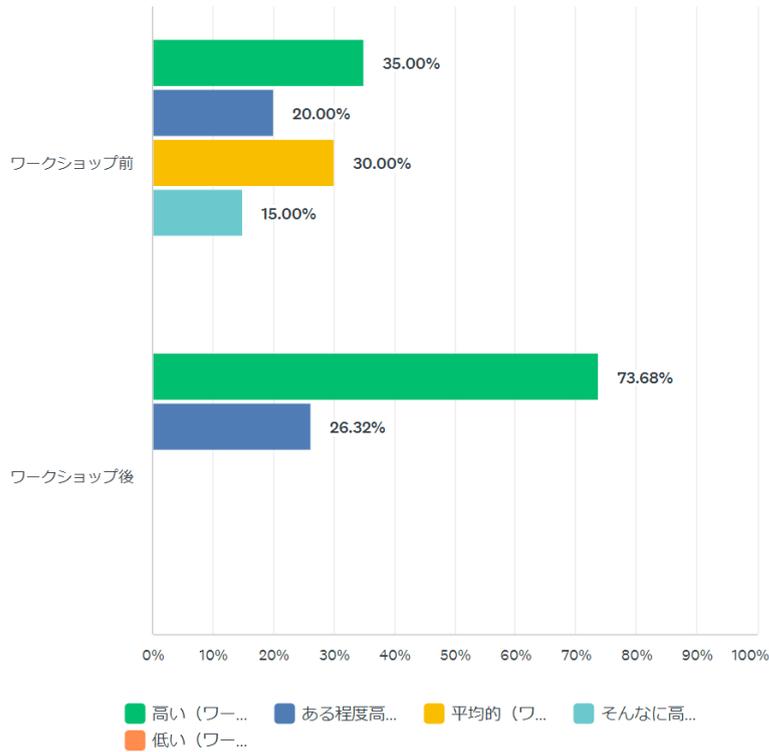
グループワークについて

20人が回答し、オンラインでのミーティングに「常に難しい」「まあまあ難しいと感じた」と回答した人が65パーセントと高い割合を占めました。グループメンバーとの関係性についてやプレゼンテーションの準備におけるグループワークの難しさについては、人によって意見が異なるようでした。最初はオンラインのこともあり円滑に話すことに時間がかかったものの、グループワークしていくにつれ仲が深まったという声やメンターがグループワークを円滑に進めるサポートをしてくれる、とのコメントがありました。

	常に難しいと感じた	まあまあ難しいと感じた	可もなく不可もなく	そんなに難しいと感じなかった	とても簡単だった	TOTAL
▼ オンラインでのメンバーとのミーティングについて	15.00% 3	50.00% 10	10.00% 2	20.00% 4	5.00% 1	20
▼ グループのメンバーとの関係について	0.00% 0	20.00% 4	25.00% 5	35.00% 7	20.00% 4	20
▼ プレゼンテーションの準備について	15.00% 3	45.00% 9	20.00% 4	20.00% 4	0.00% 0	20

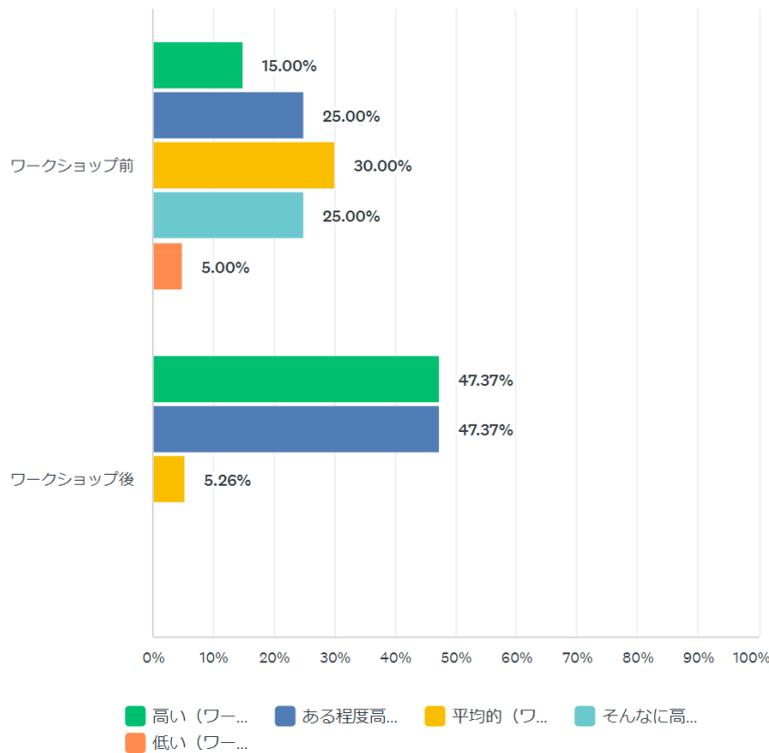
SDGsに取り組む意欲の度合い

20人が回答し、ワークショップ前には、意欲が「平均的」「そんなに高くない」が45%もいた一方で、ワークショップ後には全員が、「高い」もしくは「ある程度高い」と回答しました。



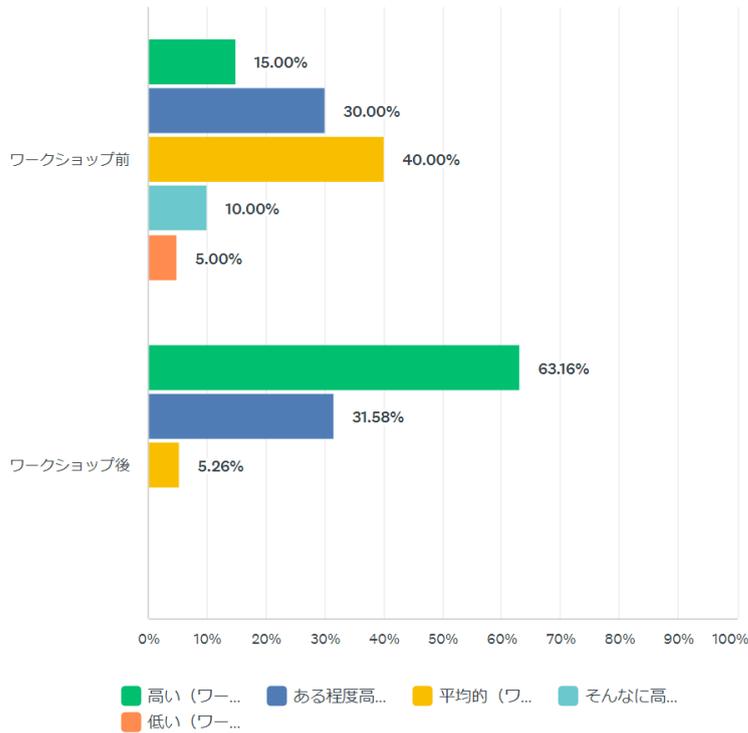
SDGsを実現するための能力

20人が回答し、ワークショップ後には95%近くが、「高い」「ある程度高い」と回答しました。



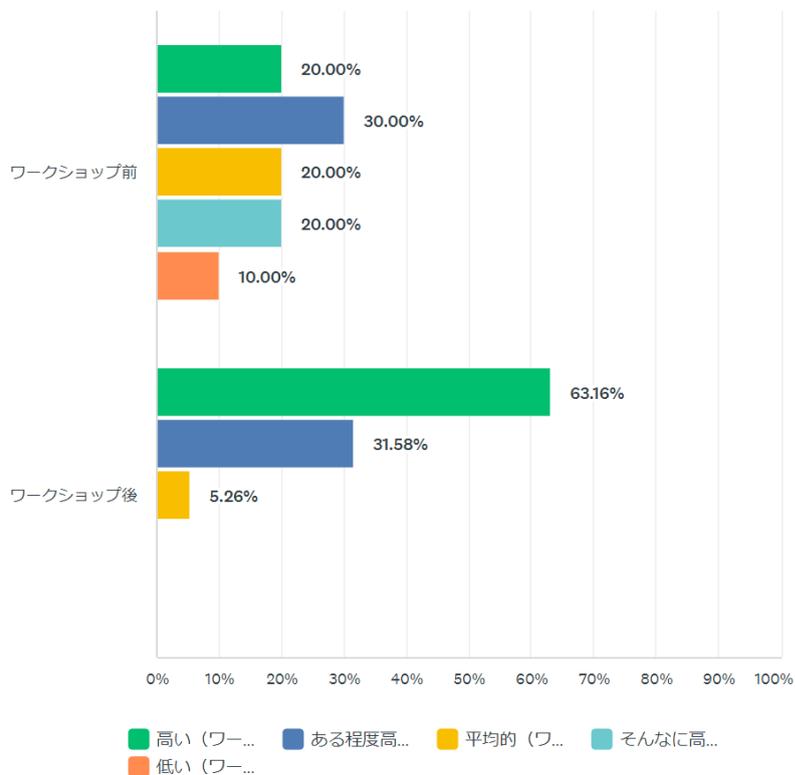
チームでソリューションを見つける力

20人が回答し、ワークショップ後には95%近くが、「高い」「ある程度高い」と回答しました。



自分の力を発信する力

20人が回答し、ワークショップ後には95%近くが、「高い」「ある程度高い」と回答しました。



考察

2021年青少年大使育成事業は新型コロナウイルス感染症が蔓延する中2020年度と引き続き、オンラインで実施されました。

今後の事業に向けた好機と課題は以下の通りです。

好機

- **包括的な学びの機会の提供**
 - EdAppで事前の講義の概要やSDGsの基礎について知れたことで、ライブウェビナーが受講しやすかったとの生徒の声がありました。
 - 研修中色々な人と出会い、様々な意見を聞いたことに対して、本研修の利点だと感じる生徒が多くいました。
- **グループワーク**
 - 赤の他人だった人と一つのアクションプランを作り上げることに達成感を感じたという声もありました。
 - グループワークを通して、メンバー同士での交流が深まったとの声がありました。
- **オンラインでの学習**
 - 広島市外の参加者も多く、学校のスケジュールも新型コロナウイルス感染症蔓延により各学校で大幅に異なる中、オンラインでの研修だったことで、時間の融通がきき受講しやすかった、との声がありました。
 - グループワークするとき画面のシェアなどがしやすかったことをオンラインでのメリットとする声もありました。
 - 対面だと参加がしにくい講師を呼べたこと、メンターが帰省等により、広島市内にいないときでも、参加してもらいやすかったことも運営側のメリットとしてありました。
- **メンター**
 - 82%近くの青少年大使たちがメンターが「とても助けになった(73%)」もしくは「まあまあ助けになった(9%)」と回答しました。
 - 大学生が、グループワークで色々と相談に乗ってくれたことでアクションプランの策定ができたとの声がありました。
 - オンラインのグループワークのため、ファシリテーターであるユニタールスタッフが各グループの様子を詳しく把握することが難しい中、メンターが各グループで青少年大使たちをサポートし、適宜ユニタールスタッフに情報共有してくれたおかげで、ユニタールのスタッフが必要に応じた支援を青少年大使たちにまんべんなくすることができました。
 - メンターたちからは、普段の学習の受け手である立場から、担い手になったことにより、責任のある立場での研修の進め方等を学ぶことができたとの声がありました。

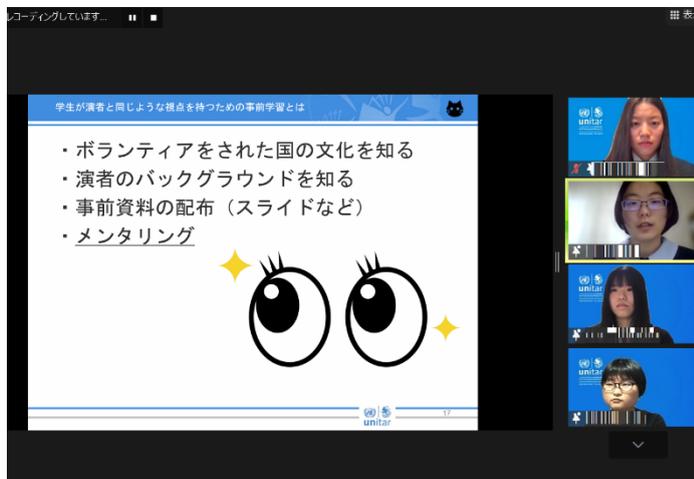
課題

- **オンラインでのグループワーク**
 - 多くの生徒がオンラインだと、グループワークで意見を合わせたりすることの難しさを挙げていました。
 - 打ち解けて話すことに当初時間がかかったことを指摘する声もありました。ただし、ワークショップが進むに連れて、意見交換がしやすくなり、メンバー同士の仲も深まったとの声が多かったです。
 - 自宅等のインターネット環境の不調により、その時々でグループワークや講義に参加できなくなる生徒も現れました。
- **生徒たちの負担感**
 - 青少年大使たちは、いいアクションプランを策定するために、ライブウェビナ

一以外の私的な時間をグループワークに充てているケースがありました。中には睡眠時間を削ってまでグループワークをする生徒もいるため、今後はもう少し、ライブウェビナー中に完結できるように研修の進行に工夫する余地があると考えられます。



第5日目の様子



最終日の様子



コアバリュー（内部資料、外部の時は外してください。）

コアバリュー	追加説明	回答
1)変化をもたらす人の創出		
研修した人の数		22
トレーニングの強度	研修時間・オンラインのタイプ	40 Hours, オンライン, (EdApp: 10; ウェビナー 外のグループワーク: 15; ウェビナー: 18)
2)連携構築へのエンゲージメント		
ジェンダー		5 (23%) 男性、 17 (77%) 女性
国の発展ステージ		全員先進国(日本)出身
都市 VS 田舎	首都からと地方からの割合	100% 地方
3) パートナーシップづくり		
パートナーシップの数		5
パートナーシップの質	グローバル、国、地域、地元機関	グローバル企業2、全国的NGO 1、地域企業1、その他（個人）1
	中身をよくするためのものか？ファイナンシャルか？	中身のため
4) Boost relevance		
研修生からのフィードバック	研修生からの声を含む	レポート内で言及
5) コンテキストの充実		
コーチ・メンターの数	関わったコーチ・メンターの数	8
	地方 or 外部	広島県出身者8名
	ユニタールのプログラム修了生だった人	6
6) ジェンダー		
女性研修生の数・割合		17 (77%) 女性
ジェンダーにまつわるコースを修了した人の数		ジェンダーコースを提供しなかった。
ジェンダーマーキング	以下の説明文を元にレーティングする。.	1

	<p>ジェンダーマーカ</p> <p>0 - ジェンダーの平等と女性のエンパワーメント (GEEW) に顕著な貢献が期待されないアウトプット/プロジェクト</p> <p>1 - ジェンダー平等に何らかの形で貢献するものの、顕著な貢献は期待できないアウトプット/プロジェクト</p> <p>2 - 重要な目標としてジェンダー平等を掲げているアウトプット/プロジェクト</p> <p>3 - 主要な目的として、男女共同参画を掲げているアウトプット/プロジェクト</p>	
7) イノベーションの養成		
提供形態の多様性	どのようなイノベティブな形態が導入されたかを短く説明する。	—
イノベティブな大人の学習手法との適応	どのようなイノベティブなアダルト・ラーニング手法が導入されたか	コミュニケーションツールとして Slack を導入。 Mural を用いたグループワーク。 携帯でのマイクロラーニング E d App の活用・
8) チャンピオン・オーナーシップ		
地元のステークホルダーとの共創		地元企業である株式会社テレビ新広島による ゴール16 の授業
アクションプランの質		SDGs の4つのゴールでそれぞれグループ分けされて、 SDGs を実現するためのアクションプランをグループで作成し、公開の最終プレゼンテーションで発表
9) SDGsの活気づけ		
SDGs のコースを修了した研修生数		全員
10) 財務的な持続可能性の担保		
ファンドの大きさ		少額